

「生活支援技術」学習指導案

千葉県立松戸向陽高等学校

- 1 日時・場所 平成25年12月12日(木) 第4・5限 介護実習室
- 2 対象クラス 福祉教養科1年生
- 3 生徒観

3 教材観 自分の好きなように、できるだけ安全で清潔な寝床で身体を休めることは、人間の基本的欲求のひとつである。疾病や障害のない人は、自分の寝床が汚れた場合、条件がそろっていれば自分の力で清潔に整える事ができる。しかし、疾病や障害のある人の中には、自分自身で寝床を準備することすらできない人がいる。

人間の基本的欲求を満たす援助こそが、生活を支援することである。それを担う介護従事者にとって、人間が、自分の好きなように、安全で清潔な寝床を整えることの意義を正しく理解し、それを支援することは必要不可欠な技術である。そして、このことこそが人間としての尊厳につながるのだということを十分に理解させ、必要な時に適切な支援ができる技術を身に付けさせる必要がある。

生活体験が少ない生徒がほとんどである。自分の生活を振り返り、常に「自分が利用者だったらどうして欲しいか」という視点を持たせながら指導する必要がある。

4 単元名 自立に向けた生活支援技術 環境の整備(ベッド周りの環境整備)

5 単元目標 寝床環境を整備することによって、利用者が必要な質の良い休息をとることができるとともに、感染予防や生活を快適に導くという目的、意義を理解させる。そして、安全で清潔な寝床環境を整えることが利用者の生活を支援する上で重要であり、それが介護者として必要不可欠な技術であるということを理解させる。また、利用者、介護者双方にとって安全な技術について考えさせ、実際に体験することにより、基本的な技術を習得させる。

- 6 指導計画
- (1) 寝床環境を安全かつ清潔に整えることの意義・・・2時間
 - (2) 安全なベッドを作るには・・・1時間
 - (3) 利用者の安全・介護者の安全・・・1時間
 - (4) ベッドメイキングの実際・・・2時間
 - (5) ベッドメイキングの振り返り・・・1時間
 - (6) リネン交換の実際・・・2時間(本時)
 - (7) リネン交換の振り返り・・・1時間

7 本時の授業

(1) 授業名 「リネン交換の実際」

(2) 本時の目標 リネン交換の支援をする際に必要な基本的な技術を理解する。また、利用者、介護者双方に安全で安楽な技術について体験から理解する。

(3) 授業の展開

段階 (配当時間)	学習内容	学習活動	指導方法と留意点
<p>導入 (15分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始の挨拶 身だしなみ、持ち物の確認 前回の授業の振り返り 本時の授業の説明 	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始を意識する。 身だしなみと持ち物について教員からチェックを受ける。必要時修正。 「シーツ交換」、「体位変換」の校内実習の授業内容を想起する。 本時の授業内容についてイメージしながら聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が授業にのぞむ姿勢を整えているか確認する。 「シーツ交換」、「体位変換」の授業で学んだことを想起できるように適宜発問する。 本時の実習の目標を理解させる。
<p>展開 1 (25分)</p>	<p>〈シーツ交換の実際：演示〉</p> <p>【開始前の準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の状態の観察 利用者への説明と了承 介護者自身の準備 物品の準備と配置 作業しやすい環境づくり <p>【効率よく短時間で進行】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2人で片側ずつ実施 <p>【汚れたシーツの取り外し方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者に不快感を与えないマットレスの持ち上げ方 汚染を広げないためのシーツの取り扱い方 <p>【再利用する物品の処理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者に不安を与えない声のかけ方 小箒の清潔な扱い方 ゴミや埃を周囲に広げない配慮 <p>【清潔なシーツの扱い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ベッド広げる際の留意点 清潔に取り扱うための工夫 利用者に不快感を与えないマットレスの持ち上げ方 しわのない安全なベッド <p>【終了後の後始末】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の状態の観察 環境の復元 汚れたものの扱い方 	<ul style="list-style-type: none"> 演示をするベッドの周りに集合し、教員の演示を見学する。 大事な箇所をメモを取りながら見学する。 自分が利用者だったら、介護者だったらということを念頭に置いて見学する。 実際に介護者役と利用者役、観察者を決め、ベッド上で着脱の介助を試みる。 グループで介助の段取りを考え、実際にやってみる。 介護者役の感想、利用者役の感想、観察者の感想をもとに、どうすればより安全、安楽に介助ができるか振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が演示を見ることができるよう、配慮する。 必ずメモをとりながら見学するよう指示する。 説明を加えながらゆっくり演示する。 声かけや表情の作り方等、生徒が意識できるようにやや大袈裟に演示する。 演示は一度に行わず、場面ずつ区切って行う。 グループごとに話し合いができるよう、ベッド間を回り適宜指示する。 ベッド上で着脱の介助を試みる。 まずは生徒の考えた方法を体験させるため、方法についてのヒントは出さない。 関節可動域への配慮等、安全に行われているかを確認する。 介護者役と利用者役、観察者を決めて実施しているか適宜確認する。ベッド上で着脱の介助を試みる。 グループ内で円滑に話し合いができるよう支援する。

<p>展開2 (60分)</p>	<p>〈リネン交換の実際：実習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全、安楽にリネン交換をするためには介護者としてどうすればよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> 各自、指示されたベッドの周りに集合し、準備をする。 教員の演示を参考に、実際に介護者役と利用者役、観察者を決め、リネン交換を体験する。 介護者役の感想、利用者役の感想、観察者の感想をもとに、どうすればより安全、安楽にリネン交換ができるか、グループ毎にディスカッションしながら実習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習が始められる状態になるようベッド間を巡回し指導する。 ひとつひとつの動作が意識できるように、ゆっくりと時間をかけて動くように指示する。 適宜ベッドサイドを巡視し、正しい方法で実施しているか確認し、必要に応じて指導する。 安全に実習できているかを確認し、必要に応じて指導する。
<p>まとめ (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の振り返り 今後の自己の課題の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> 介護者役、利用者役の体験を想起しながら本時の実習を振り返る。 今後の自分自身の課題について考えてみる。 解決しておきたい問題があれば質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の実習を想起できるように適宜発問する。 介護者役と利用者役を体験し、どのようなことを学び、今後の学習にどう生かすかを考えさせる。 次回の授業の確認 提出物の指示 後片付けの確認と指示

8 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみを整え、積極的に実習に参加したか。 安全なベッドを作ること意識して実習したか。 利用者役への配慮ができ、声かけを適切に行うことができたか。 安全に作業することを意識して実習したか。 同じグループのメンバーと協力し実習したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者、介護者双方にとって、安全、安楽に着脱の介助をすることの必要性を認識し、その方法について考えることができたか。 利用者の自立に向けての介助の方法について考えることができたか。 利用者役、介護者役の体験から、今後の自己の課題を明確にすることができたか。 本時の実習内容を、ポイントを踏まえてレポートにまとめることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者、介護者双方にとって、安全、安楽にリネン交換をすることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者、介護者双方にとって、安全、安楽にリネン交換するにはどのようにしたらよいか理解できたか。